

出題のねらい

公募制推薦前期の国語は、現代文二題の出題です。一問は文学的文章、もう一問は説明的文章です。文学的文章は中嶋隆の短編小説「山の端の月」から出題しました。中嶋隆は近世文学の研究者で井原西鶴研究の第一人者です。その一方で時代小説も発表されており、時代小説といっても、そこで語られる主人公の心情は、現代人にも十分共感できると考えて出題しました。説明的文章は野矢茂樹「哲学の謎」からの出題です。野矢茂樹は哲学者です。難解な専門用語を使わず、日常語によって意識や他者に関する哲学を考えるのが持ち味です。今回の問題もそうで、説明的文章といっても、二人の登場人物が軽いノリで語り合うという形をとっています。けれど、会話の内容自体は論理的な思考を働かさないと理解できないはずです。

例年のことですが、今回も漢字の出来不出来が合否の決め手になったケースが多くあったと思います。出題は必ず常識的な常用漢字の範囲からですので、日頃から漢字練習を重ねて、その成果を試験場で発揮できれば、きっと良い結果が出るでしょう。ほか、論述式の問題があります。今回も長いものでは「60字以内で説明せよ」というのがあります。簡単な問題でないことは言うまでもありませんが、アドバイスを言えば、当該設問以前の問題にも注意して欲しいと思います。設問は全くバラバラに出されるのではなく、次の設問のヒントになっている場合がよくあるのです。



【解答】(50点)

問一	a 嘆願	b 候補	c 強要	
	d 傍	e 一心同体		(各2点×5)
問二	絶えず馬の調子を見ながら走る(14字)			(4点)
問三	1 ほざく	2 三郎左にそ		(各4点×2)
問四	粗暴			(4点)
問五	1 ウ	2 イ	3 オ	
	4 エ	5 ア		(各2点×5)
問六	ア			(4点)
問七	お前が勝てば、家老にしてやる			(4点)
問八	太郎は、石之助にだまされて競争させられたものの、彼が自分を家老にしたいと思っているのはウソではないことがわかったので。(59字)			(6点)

【解説】

問一 一番正解率の悪かったのはaの「嘆願」で、2～3割でした。胆・単・短…様々な字があてられていました。bの「候補」とcの「強要」は7割ほどの正解率でしたが、「候」を「俟」に、「要」を「用」や「容」に誤るもののがかなり見受けられました。dの「傍」も半分ほどの正解率で、片・傾・端などがよく出てきました。eはよく書いていましたが、「一身体」という解答はかなり目につきました。本学の入試問題には必ず漢字を出題することは、オープンキャンパスの入試説明会でも毎回伝えてあります。画数の多い難字よりも、日常よく目にする字を出題するようにしています。今回もまさにそうです。

問二 8割ほどの正解率で、よくできていました。「太郎は、いつも」馬の調子を見ているのです。「馬と乗り手が一体となる」は部分点としました。その少し上の「馬上からの射る技」は流鏑馬の説明なので誤答です。

問三 (1)は石之助の詞の中から、三郎左を非難するニュアンスの動詞を抜き出せばよいのですから、ごく簡単な設問です。7割ほどの正解率でした。

(2)も(1)と同じ石之助の言葉の中から一文を選び出すだけの易しい設問であると思っていましたが、2割ほどの正解率でした。選んだ一文の後に「から怒りを覚える」と続けておさまりの良いのは正解の箇所だけです。

問四 これも正解率8割ほどで、よくできていました。

問五 副詞等の空所補充です。1に「あわてて」、3に「すぐ」が入るのですが、これを反対にした解答がかなりありました。1の、つんのめりそうになって、それをすんでのところで踏みとどまろうとして腰を落とす際に挿入されるのは、「すぐ」よりも「あわてて」がより適当です。

問六 正解率は7割ほどでした。このような選択肢問題では、正解を探すよりも、明らかな誤答を削除してゆくというやり方が有効です。イでは「本当の戦のつもり」ウでは「に対しての優越感」が本文には書かれていません。因みにエでは冒頭の「自分が思わず」からして間違いです。

問七 正解率8～9割で、ほぼできておりました。14字と指定したことも見つけ出しやすかった理由でしょう。

問八 六十字というかなり長文にまとめあげることが難しかったようです。模範解答はあくまで一例です。様々なパターンに部分点をつけました。

石之助が太郎を家老にしたいという気持ちは本当だとわかって嬉しくなったというのが、最も大事なポイントですので、そこが書けていれば高く配点しました。石之助と本気でぶつかることができ嬉しかった、という感情も本文から読み取れますので、部分点をつけました。なお、正確な日本語が書けていないと部分点をつけることもできません。主語が省略されたり、途中で変わってしまう解答が目立ちました。論述形式の問題がある場合は、普段から自分の考えていることを、読み手に正しく伝える文章を書く練習をしておくことが大切です。



【解答】(50点)

問一	a 一致 b 体系 c 整合 d 演説 e 静聴 (清聴も可)	(各2点×5)
問二	1 ウ 2 エ 3 ア	(各2点×3)
問三	青白く光って見え、 熱い印象を与える。(18字)	(6点)
問四	イ	(4点)
問五	ア	(4点)
問六	直線が曲がっていても 定規も曲がっているので、 つじつまがあうから。(32字)	(6点)
問七	ア	(4点)
問八	そしたらさ	(4点)
問九	他人の知覚世界は実のところ私の知覚世界と まったく異なるものかもしれない	(6点)

【解説】

問一 漢字はいつも合否を分けるくらい受験生に点差のつく問題です。8点獲得を目標にして、悪くても6点は取れるようにしましょう。5割弱の正解率でした。「体系」「整合」の出来が悪く、こういう言葉聞いたことがない人が多いのかな、という印象を受けました。「静聴 (清聴)」は「聴」を書いてもらうつもりの問題だったのですが、「精聴」や「声聴」など、「静 (清)」で間違える人も多かったのも意外でした。字画が多くて難しい漢字を覚えるのではなく、簡単な漢字の使い方を勉強する方が効果的です。

問二 よくある空欄補充の問題。よくできていました。

問三 ここでの視覚が普通でない人には、溶岩が青白く見えるわけですね。それを間違えてはいけません。そして、そのうえで問題文をよく読むことです。「色と印象」について答えなければなりません。この場合の「印象」とは「熱い」ということです。それも書くこと。「色」しか答えない解答が目立ちました。ただし、色について正しく答えれば部分点は獲得できます。5割程度の正解率でした。

問四 難しかったようです。3割以下の正答率でした。字数の短い選択肢が正解だったため、選びにくかったのでしょうか。しかし、そんなことに惑わされずに。Bさんに分からないことはAさんにも分からないはずであることは、しっかり自信をもって読み取ってほしい。

問五 「色と感じ」だけでなく「形」でも同じ結論が出ることを読み取れば、正解はアかイですね。そこまでわかれば、イが正解であることはわかるでしょう。6割程度の正解率でした。

問六 三十五字も書かねばならぬ問題です。これがもし、もっと字数の少ない部分を抜き出せ、という問題だったら、かなり簡単な問題ですね。正解は「定規も曲ってるのだから」でしょう。しかし、それに気づけば、これにあと二十字ほど書き足すだけで正解になるわけです。つまり、「直線」と「つじつま」について書き足せば正解です。傍線の二行あとの部分を使った誤答が目立ちました。3割程度の正解率でした。6点満点を取れなくても、頑張って解答して部分点で2点を獲得した人が多かった問題です。みなさんもあきらめずに。

問七 選択肢にある直喩、隠喩、擬人法、反語法といった基本的な修辞技法は知っておいてほしいです。6割程度の正解率でした。

問八 難問かな、と思って作ったのですが、6割程度の正解率がありました。「過激な形」がわかれば正解が見つかるでしょう。ちょっとあり得ないような極端な事例をBが話している箇所ですね。

問九 今回の問題文全体の結論とも言うべき重要な箇所を探してください、という問題ですから、これは正解してほしい。6割程度の正解率でした。間違った人は長文の読解が苦手なのかもしれません。納得できるまで読み返してみてください。